

## 地域との連携によるログハウスの活用と国有林材のPR

岩村田・経理課経理係○半 田 忠 信  
会計係 上 原 義 明

### 要 旨

国有林野事業の厳しい現況をふまえ、林業生産活動を活性化しつつ、多様な国民的要請に答え得る国有林をめざして、ひとつとしては、木材需要の拡大を図るため「木材需要普及宣伝モデルハウス（ログハウス売店）」を設置し、ふたつとしては、直面する収入の増大を図るため、このログハウスを「森林のアイデア製品販売店」として利用し、それぞれ従来からのPR、山の手作り品製作販売にプラスして、職員の参加と、ここに開発した販売手法によって実行し、より一層地域の活性化を推進し、併せ収入の増大を図った。

### はじめに

国有林経営が、より地域に根ざすべく、年度当初、地域の声を徴すなど、この種業務の企画実行の最中、国際保健休養地軽井沢銀座のど真中にある、軽井沢郵便局のテント張りによる夏期臨時窓口は町なみにそぐわないため、イメージアップに営林署のログハウス風なものはどうかと、郵便局から貸与依頼があり、これを発表させアイデアを出し、なりふりかまわず国有林のPR・国有林材のPRと、収入の増大への販売努力をし、また取り組んできた併合課題について、報告かたがた発表する。

#### 1. ログハウス製作、活用

（実施経過）製作に当たっては、経理課を主体に全職員の協力体制を確立し、次のプロセスをもって実行に入る。

##### 1. 実行意志ならびに分担の確認

62年5月12日営林署（岩村田以下同じ）郵便局（軽井沢以下同じ）木協（北佐久木材協同組合以下同じ）の三者で次の確認を行った。

(1) 営林署（共通意志は国有林野事業と郵政事業の協調により木材需要の拡大と郵政事業の拡大に資する。）

◎ログハウス部材の生産（壁材・構造材）

◎ログハウス部材の運搬加工

◎ログハウス部材を木協に貸付

##### (2) 木 協

◎営林署が行うログハウス部材以外の資材の調達加工

◎営林署が行うログハウス部材加工品の運搬

◎ログハウスの建築解体（毎年）

##### (3) 郵便局

◎建築申請同行為届（毎年）

◎敷地の提供

◎基礎アンカーボルト施行（地中部）

(4) 木工品等の展示即売

◎木工品の製作・調達（ふるさと小包扱含む）

○宮林署職員の手作り木工品，○管内各署の手作り木工品。対応は宮林署職員及び木協職員。

◎郵便局職員は記念切手とふるさと小包

(5) その他

◎対郵便局との使用協定

◎対木協との貸付承認

2. 製作ログハウス（写真－1，2）14.9㎡（4，5坪）

(1) 使用材ならびに数量

カラマツ素材130本14.38㎡，カラマツ全幹材9本7.14㎡。自署，白田署人.工.林カラマツ内  
振価格437千円

(2) 仕上り部材量（62.5.15－62.6.10工期）

壁部材360本9.423㎡，構造材126本3,005㎡，地元KKナカジマ請負42万円（製材・乾燥）

(3) 無償貸付承認通知書（対木協…62.6.11）

貸付期間62.6.12～63.6.11

(4) 覚書及び協議確認書（対郵便局）（62.6.22）

ア 覚書…仮設施設（ログハウス）の取扱いならびに同施設の利用方法について申し合せ覚書とする。

イ 協議確認書…覚書記載事項外事項として

○利用主体以外の併列利用体（木協）について

○ログハウス損耗時の協議，について夫々後日のため締結した。

(5) 不適材，背板売払，38千円で部材，製作請負者へ

(6) 7月21日，郵便局前にログハウス仮設完了，翌日より展示木工品搬入

(7) 「ログハウスの展示と，これを利用した軽井沢郵便局臨時出張所」オープン（7月4日オープニングセール）

Ⅱ 展示用手作り小木工品等の製作，調達（実行）

1. 5月22日までに署のこの種プロジェクトの整備確認を図り，自署製作は表1の産品（写真－3－4－5）を職員一丸となって作り出した。そのプロセスは

(1) 市況並びに類似品製作工場見学

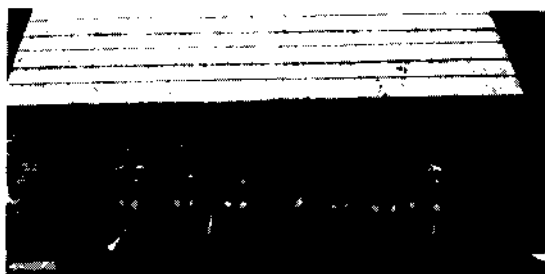
(2) 製作工具類購入（ベルトサンダーほか10万円）

(3) 品格の整え，更には軽井沢で売れるものの開発，試作（当然コストも考慮）

(4) 小木工品製作の安全衛生確保

(5) 6月11日を初作として2,366点の製作をみる。（職員実行延49人.工.）

(6) ワレ止塗料（2万円）等塗付仕上り。



(写真-1)



(写真-2)

2. 前(1)に併行して5月21日付文書で各署に送付依頼を発出、あらゆる機会をとらえて軽井沢への搬入につとめる。管内各署からのアイデア商品は1,044点(表-2、写真6-7)にのぼる。

〔表-1〕

自署製作アイデア商品販売実績(自署収入)

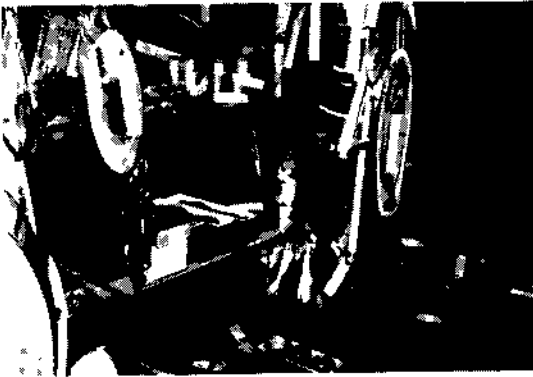
品名	製品及び仕掛品	販売	単価	販売額	摘要
木製はがき	1,901 個	1,898 個	200～700円	467,800円	ヒノキ
壁掛	54	52	300～1,500	26,300	ヒノキ
丸太椅子	39	37	300～10,000	92,300	ヒノキ打出し
すりこぎ	121	107	100～1,000	36,100	サンショ
あかすり	117	81	50～100	6,500	軽石
アクセサリ掛	49	33	400～1,000	22,600	ヒノキ尖端
一輪差し	6	5	700～4,000	7,700	古木壁掛向
占木置物	4	2	1,500～20,000	7,000	アカマツ根株
キーホルダー	16	14	100～200	1,600	サンショ輪切
松笠(実)	26	24	100～500	6,300	詰合せほか
写真立	32	31	20～150	2,640	エンデュ枝切
花台	1	1	1,500	1,500	モミヂ
計	2,366	2,285		678,340	

註……9割かた若者に人気

(写真-4)



(写真-3)



(写真-5)



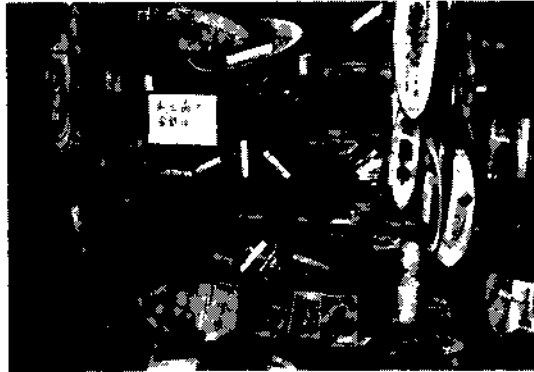
(写真-6)

[表-2]

管内営林署から送付されたアイデア商品（収入転換分）及び  
 同上品に付加価値付（軽井沢字句記入ほかで自署収入分）販売実績

品名 営林署	コスト	一輪差し	二輪差し	壁掛	ようじ立	丸太椅子	杖	花台	置物	名札	木製燈籠	スノコ	花器	木製はがき	アクセサリー掛	ベン立	表札	計	付加価値内書 付数	
飯山	177	1																178	(49)	
上田				27														27	(4)	
白田					82	4	25											111	(24)	
松本	20					17		18	2	6								63	(24)	
伊那		1	1					10			6							18	(2)	
奈良井												13						13		
敷原								29					4					33	(9)	
福島	66																	66		
上松				21										100				121	(19)	
野尻															19			19	(4)	
南木曾	41																	41	(11)	
坂下					9										7	13	5	34	(6)	
計	304	2	1	48	91	21	25	57	2	6	6	13	4	100	26	13	5	724		
収入 転換	単価 販売数	150~ 800 84,900	1,000~ 3,000 4,000	3,000~ 3,000	200~ 700 18,700	200~ 300 26,400	500~ 5,000 30,000	800~ 7,000 22,000	600~ 2,000 51,300	4,000~ 8,000	200~ 1,200	3,800~ 8,000 32,800	1,500~ 19,500	800~ 3,200	400~ 40,000	600~ 800 20,200	300~ 3,900	1,000~ 5,000	373,900	
付加 自収	単価 販売数	+100 ~200 7,500			+100 ~200 2,800	+100 ~200 2,100	+300 ~700 4,600	+400 ~500 1,700	+400 ~800 8,300	+1,000 1,000	+100 100	+1,200 1,200		+100 300	+200 800	+100 200		30,600	(152)	

(写真-7)



### Ⅲ 販 売

宣伝用看板（手作り）と売店内の陳列等，限られたスペース（2坪強）内で最善のアイデアを出し合い7月4日オープニングセール後，次のプロセスで販売に入る。

1. 一品毎に伝票（価格票を帖付）（上半分を品につけお客さんに領収書として，下半分をこちらの売上控として）の帖付
2. はが木，ふるさと小包（三辺合計15cm但し最長辺は90cm止）（ともに郵便局収入加算）等については市場性（ここでの）を考慮に入れながら対応。

（註） スノコ等は最長辺90cmに制約され今後の課題となる。

3. 7月4日から9月10日までの毎週木曜日を「木の日」とし，この日と毎月1回の土，日曜日に職員が二人ずつ交替で，午前10時から午後5時（7月下旬から8月中旬のピーク時は午後6時）まで販売に当たる。（職員実行延34人丁）

なお，営林署の販売日以外の日については木協の職員が担当した。

4. ニーズに即応すべく製作は職員のアイディアと製作のスピーデーさが要求された。
5. ログハウス売店そのものの普及宣伝にも，カタログ併用で対応

○販売価格245万円（素材価43万円，製材，乾燥42万円，加工160万円）

### Ⅳ 成 果

1. ログハウスについて

この手法での販売を通じて軽井沢を訪れた多くの人たちに，「木の良さ」が少しでも理解され，「木の香り」「木のぬくもり」が軽井沢の思い出として，心に深く刻み込まれたこと。また，期間中にログハウス建築についての問い合わせも，相当数あり，関心の高さがうかがわれ木材需要拡大のPRの一助となり大きな成果であったと考える。

2. 小木工品等の販売について

売店 $\frac{1}{2}$ （2坪強づつ）共用の中で営林署と郵便局が同居して，郵便局は，記念切手，ハガキの販売のほか郵便小包の受付業務を。営林署では，自署産品（表-1）各署産品（表-2）を次の

売上げ（収入）にまで高め、直接収入の増大と広く一般の人びとに国有林の現状の理解をも含めて、PRできたことは大きな成果であったと考える。

(1) 収入額内訳（表1, 2）

ア、自署産品	2,285点	678,340円
イ、他署産品	724点	373,900円
ウ、イ品に自署で付加 備付産品	(152点) 計3,009点	30,600円
		1,082,840円

(2) この手法での売店が来シーズンも続くことと、また中～長期へ向けての継続性の面でのPRも無形の成果と考える。

Ⅶ 反省と考察

当署で59年開発以降各署へ販売をお願いしている浅間岩鉢の年平均収入も、50万円台でとどまっている矢先の今期開発の収入は一定の展望をみせたものの、短期間に軽井沢の観光客のニーズに応えられる産品を、この実績分析、検討の中から研究し、来夏に向け今から次のプロセスを進めていかなければならない。

1. 特に木工品の製作は、原木採取と天然乾燥が最たる作業であるだけに、この冬（2月）中に原木を採取しておく。
2. 収入の大宗を占める「はが木」については年度初めの4月下旬から製作に入る。
3. 自署、他署夫々の産品についても搬入用途を6月20日におく。
4. 販売途上での追加製作、同資材は当初から見込んでおく。
5. より高アイデアの目で捨ておかれている原木（枯木、穂先、トッコ、木コブほか）の顔を見直し、森林の宝として扱い集収する。

おわりに

署長を中心に全国初の試みに全職員が一丸となって取り組んできたことと、地域関係者、営林局、各営林署の絶大な指導、協力をもらい予想以上の成果が得られ、大盛況のうちに、この業務を締めつつ来るシーズンへ向うが、投資効率等の面では、初年度でありながらも、

○支出 (投資)	}	内振材料	437,000円	○収入 (3,009点)	}	自署産品	678,000円
		製材乾燥	420,000円			他署産品	374,000円
		工具類	100,000円			付加産品	31,000円
		塗料類	20,000円			計	1,083,000円
		計	977,000円				

であり、当署の職員実労賃を除いた収支差とは言え、黒字を計上できたことにプラスして、中～長期へ向けての展望も得られた。今後とも「木の良さのPR」と、より収入の増大にむけて職員一丸となってはげみたく御指導、御協力をお願いしたい。